

2020年9月3～5日アポイ調査+α

6月から実施しているヒメチャ幼虫ネット掛け実験の最終段階。
前回8月23日の調査では65%の生存率で蛹と終齢まで育っていた。
今回は終齢に設置した蛹ネットの回収。
教育大旭川のK君のすすめるトレイルカメラによる追跡も最終盤となった。今回の調査には道外からW御大と辻氏も参加することに。

さて結果はいかに？

9月3日

教育大旭川のK君と富良野駅で合流。W御大は関空から千歳いりで鷗川で合流。辻氏は千歳から自力で様似までという計画。例によって途中寄り道調査をする。

厚真キマモドポイントにて



台風の影響か東風が強い。いつもの斜面だけは風邪の影響が少なく、キマモドの♀、ゴイシジミがちらちらしている。

TGでゴイシ産卵を狙うW御大





前回(8月22日)より♂はめっきり少なくなり、♀が盛んにササの葉の裏を覗くように飛翔している。アブラムシの発生でササ群落の一部が葉が枯れてしまっているがその周りに広がりつつある若いアブラムシのコロニーを狙っている。

かなり葉が枯れ始めた葉の裏には終齢幼虫もいた。(左写真)

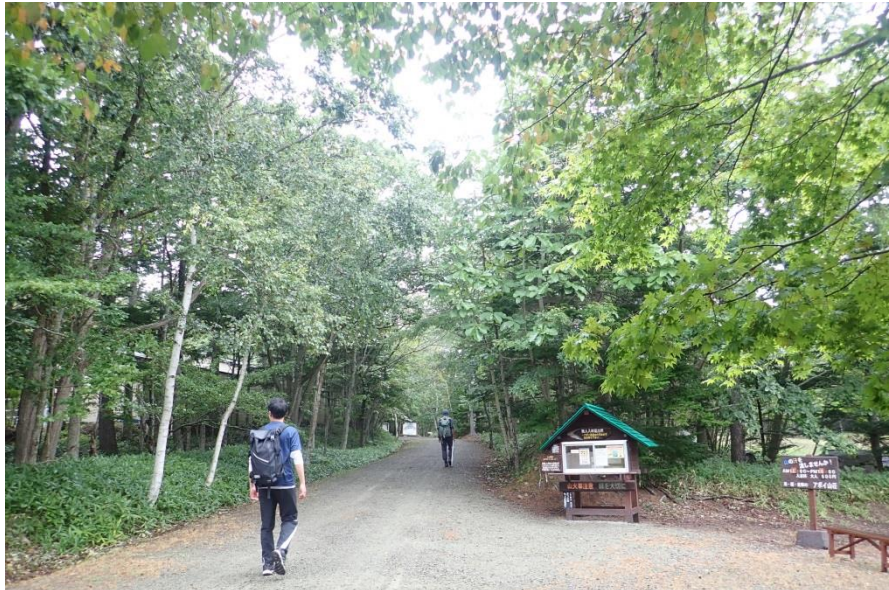
9月4日

様似に4時頃到着、今日と明日の食材をコープで購入しアポイ支援センターに。貸切かと思われたが、N大学の女性が一人卒論の調査を継続しておられた。晩飯はマスのチャンチャン焼き。ビールの後の日本酒へ突入している頃、辻氏到着。

さて調査当日。朝から雨。雨が小降りになってきたのを見計らい8時半頃出発することに。支援センターの傘を借用。辻氏は本人お気に入りの傘付きハット着用。



樹林帯は傘が一番とW御犬



この傘両手が空くのいいのよと辻氏

避難小屋からは風が強くなってきたので傘は断念。レインジャケットで頑張ることに。気温が高いので蒸れそうだ。流石に登山客はいない。



馬の背中心に設置した12個の蛹ネットの回収に入る。慎重にネットを外し、どこかで蛹化しているだろう蛹を探す。これがなかなか見つからない。中村さんの8月のデータでは幼虫21個体に対してネットを被せたことになっているが、どうも番号もあわない。現状変更を極力避けるためで石で押さえてあるため、ネットの端っこから逃げている個体が多いのかもしれない。



予想より少ないものの、ネットの中で蛹化している蛹をいくつか確認できた。その蛹化パターンは3つあり、①本来の習性に近いものとしてケトダシバなどの草本の根際に頭を突っ込んで、周囲の枯葉を緩く綴るタイプだった。枯葉を取り除くとすぐに蛹がみえる。近似種のチャマダラセセリに比べるとずいぶん簡易な越冬巣だ。



2つ目は、8月の調査でも見られたタイプで、
②カールした枯葉の中で、これも軽く吐糸で
つづり合わせて蛹化するタイプだった。



3つ目は、これも8月の調査でもよく見られた
タイプで、③ネットの端で蛹化するタイプ。右
の写真は前蛹の段階。少しだけイネ科の枯
葉を吐糸で集めている。より良い蛹化場所
を求めてワンダリングしたが脱出できずあき
らめてここを蛹化したという感じが否めない。



K君は4台設置したトレイルカメラを回収。
ネットの外から設置したものが多く、中
での幼虫の行動がうまくとらえられてい
るちょっと心配。

3時間ほどでとりあえず作業終了。雨上
がりにベニヒカゲが少し飛ぶが、雨露で
観察も容易ではないので終了。避難小
屋で昼飯を食べて、新道から帰ることに。
途中陽が差すこともあったが期待したベ
ニヒの産卵は見られず。



登山口付近で観察した蝶を少し。



ミスジチョウの越冬前幼虫



アポイで初めて見たゴイシジミの♂



脱皮直後のクロヒカゲ3齢幼虫

9月5日

調査終了後アポイビジターセンターに寄り、ダニデザインマスクなど購入。夕食は定番のシャブシャブ。台風10号の動向を気にしながら10時就寝。

今日はW御大は層雲峡へ、K君は旭川へ帰らねばならない。帯広周りで帰ろうということで7時支援センターを出る。

今日も雨模様。天馬街道を快調に抜け忠類へ。カラフトヒの越冬前幼虫、チャマダラセセリの巣、カラフトタカネキマダラセセリのすなどが狙い。雨が降りやまず下草はびしょびしょ状態だが、雨ニモマケズ、スマレやミツバツチグリの生える伐採地に突入。



スマレに食痕はあるがカラフトヒは見つからず、チャマもだめ。カラタカもオニノガリヤス中心に探し、蛾の幼虫ばかりでダメかと思っていたら、林道わきのクサヨシから1頭発見(2齢幼虫?)。これはお持ち帰りに。





クロヒカゲの♀

林道脇には、今年は不作のクロヒカゲがたくさん飛んでいる。成虫幼虫写真を少し撮る。ササの葉食痕さがして幼虫をたくさん発見。ヒメキマダラヒカゲもいた。

さて次はどこに行こうかなと車に戻ると・・・。



脱糞するクロヒカゲの2齢幼虫



ヒメキマダラヒカゲの2齢幼虫



アカマダラが集まってくる

車の周りにアカマダラが集まっている。天気も少し良くなってきたので、ちょっと調べてみることに。

道路の反対側に食草群落発見。葉が食われまくっている。新しく伸びてきた葉に卵塊発見。



常にベストショットを狙う辻氏



アカマダラの卵柱



蛹化場所を求めワンダリングする終齢幼虫

エゾイラクサ群落を見て回るとまだ終齢もいる。食草を離れ下草を歩き回っているものもいる。どこかに蛹がぶら下がっていないかと探してみるが見つからない。明るくなって、さらに飛びはじめ♀も飛び始める。産卵しないか見守るが、産卵しない。飛び出した場所を見ると卵塊が、産んだ直後だったのかもしれない。卵塊一つお持ち帰り。



産卵しそうな雰囲気があった♀

K君が大好きな♂。なかなか離れてくれない。



忠類から十勝川温泉方面へ移動。チャマの生息地を少し歩くが、雨で観察も難しく断念。
W御大辻組は音更のミヤマセセリ生息地に寄り三国峠から層雲峡へ向かうことに。
我々は富良野～旭川の帰路へ。



ということで、とりあえずヒメチャネット掛け・トレイルカメラ調査は終了。これからデータのまとめに入ることに。

W御大はまた白雲小屋で9月下旬まで高山蝶の調査続行。

辻氏はこのあと、千歳方面でキマモドやヒョウモン類の産卵など8日まで、エブリ車中泊で頑張る予定。

皆様お疲れ様でした。

ということでした

T, Nagamori